

令和7年（2025年）度行政評価シート【個表】 令和 7 年 6 月 20 日

評価対象事業		評価者	文化課長 島田 義正	
共生-21	国際交流推進事業	☒ 自治事務	主管課	文化課
		☐ 法定受託事務	関連課	
総合計画上の位置付け	分野	1-(3) 多文化共生社会	施策の方針	1-(3)-①多文化共生社会の推進

1 事業の目的

対象	市民等
意図	市民の国際交流・国際協力活動への支援を行うとともに、多文化共生社会への理解を図り、国籍や文化の違いを認め合い、外国籍市民とともに暮らしやすい地域づくりを進めるため。
効果	行政レベル、市民レベルともに、国際理解や多文化共生社会への理解を進展させ、地域の国際化を進めることにより、世界に開かれたまちづくりを図る。

2 令和6年(2024年)度を実施した事業の概要

・市役所の窓口等に外国人が訪れた際に市民通訳ボランティアを派遣した(中国語1回、英語1回)。	
・令和7年1月に、鎌倉商工会議所で国際交流の実践事例の紹介として「鎌倉市青年韓国・安東市訪問事業報告会」及び鎌倉安東友好交流会会長の兵藤氏による講演を含む国際交流講座を実施した。	
・令和6年11月に、高德院において、市内の国際交流・協力団体と共催で、国際交流フェスティバルを開催した。	
・令和6年8月に日米野球交流150周年をきっかけに実施された「日米野球外交プロジェクト」の一環で、アメリカ・ウィリアムズバーグ市の学童野球選抜チームが鎌倉に訪問し、表敬訪問、交流試合及び文化交流等を行った。	

3 事業を構成する事務事業(最小事業)実績

枝番号	事務事業	実施した主な事業 (主な経費等)	指標(単位)	令和6年度		令和7年度	達成度
				指標(実績値/目標値)		指標(目標値)	
				事業費(決算/当初)(千円)		予算額(千円)	
01	国際交流啓発事業	国際交流講座講師謝礼 等	国際交流講座開催回数(回)	1 / 872	1 / 1168	1 / 30	100%
02	国際交流フェスティバル事業	会場内仮設電気設備設置委託料、会場内設営業務	国際交流フェスティバル参加団体数(団体)	18 / 730	20 / 783	20 / 858	90%
03	市民団体連携事業	国際交流・国際協力活動団体情報誌の発行	情報かわら版発行回数(回)	4 / 0	4 / 0	4 / 0	100%
04	通訳ボランティア事業	市民通訳ボランティア活動謝礼	-	- / 6	- / 15	- / 15	-
05	関係団体負担金	神奈川県日中友好協会賛助金、医療通訳派遣システム分担金	-	- / 54	- / 54	- / 54	-
06	一般事務経費	消耗品費等	-	- / 5	- / 10	- / 10	-
07				/ /	/ /	/ /	
		財源内訳	国県支出金	/	/	/	
			地方債	/	/	/	
			その他特定財源	/	/	/	
			一般財源	1667 /	2030 /	967 /	
		事業費の合計(千円)		1,667 /	2,030 /	967 /	
		人件費(千円)		4,883 /		5,537 /	

4 この事業に関わる職員数(毎年度4月1日時点)

	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
正規職員等	1.0	0.8	0.6	0.6	0.6	0.6
会計年度任用職員	1.0	1.2	0.1	0.1	0.1	0.3

5 評価結果

(1) 最小事業評価

枝番号	事務事業	指標分析の推移、目標未達の理由	上位施策にどう寄与したか、構成する事業としての妥当性	事業実施上の課題、改善点
01	国際交流啓発事業	国際交流をテーマに報告会を1回開催し、目標値を達成した。	多文化共生社会への理解を図り、国籍や文化の違いを認め合い、外国籍市民とともに暮らしやすい地域づくりを推進する。	国際交流・協力団体等の協力を得ながら、時世や社会情勢を鑑み、話題性のあるテーマ選定を行うとともに、集客の向上に努め、ハイブリッド形式等、多くの人が参加しやすい方法を検討する。
02	国際交流フェスティバル事業	参加数は、市民団体の活動状況にもよるため、指標を下回ったが、18の団体が参加し、団体同士の交流を深めることにも寄与した。	多文化共生社会への理解を図り、国籍や文化の違いを認め合い、外国籍市民とともに暮らしやすい地域づくりを推進する。	国際交流や国際協力を行う市民団体の活動の周知に努めるとともに、市民の国際交流・国際協力活動に対する理解をさらに深められるように取り組む。
03	市民団体連携事業	国際交流事業の活性化と市民等への情報提供のため、「情報かわら版」を年に4回発行し、目標値を達成した。	多文化共生社会への理解を図り、国籍や文化の違いを認め合い、外国籍市民とともに暮らしやすい地域づくりを推進する。	国際交流や国際協力を行う市民団体の活動の周知に努めるとともに、市民の国際交流・国際協力活動に対する理解をさらに深められるように取り組む。
04	通訳ボランティア事業	来庁した外国籍市民が窓口で意思疎通が困難な場合に、市及び公共団体等から要請があつて派遣される受け身の制度であることから、指標を設定することがない。	多文化共生社会への理解を図り、国籍や文化の違いを認め合い、外国籍市民とともに暮らしやすい地域づくりを推進する。	-
05	関係団体負担金	国際交流に寄与する団体から示される負担金であり、指標を設定することがない。	多文化共生社会への理解を図り、国籍や文化の違いを認め合い、外国籍市民とともに暮らしやすい地域づくりを推進する。	-
06	一般事務経費	消耗品等の事務経費のため成果指標は設定していない。	-	-
07	0			

(2) 視点別評価

効率性	事業費の削減余地はないか		1 事業費の削減余地はない
	事業の外部化(民営化・業務委託等)はできないか		3 外部化ができる事業はない
	関連・類似する事業の統合はできないか		3 統合できる事業はない
妥当性	各事業の実施に対する市民ニーズはあるか		1 市民ニーズは変わらずにある
	民間によるサービスで代替できる事業はないか		3 民間によるサービスで代替できる事業はない
有効性	事業の上位施策に向けた貢献度はどうか		1 目的達成のために適切な手段(最小事業)である
公平性	受益者負担は公正・公平か	△.負担未導入	△-2 受益者はいるが、今後も公費により全額市が負担すべきものである
協働	市民等と協働して事業を展開しているか	○.協働実施済	
		協働実施済の場合のパートナー	国際交流・協力団体連絡会

(3) 総合評価

※最小事業評価を踏まえて、今年度以降の取組方針等を記載する

【今後の方針】	☐ 拡充	☐ 改善・変更	☒ 現状維持	☐ 縮小	☐ 休止・廃止
国際交流フェスティバルの開催及び情報かわら版の発行等を通して、国際交流・国際協力への理解を深められるように、継続的に取り組むとともに、外国籍市民に対しても、市民通訳ボランティアの協力等により、市民同士が支え合う開かれた地域づくりの推進を行っていく。					

【参考】

◎事業実施に係る主な指標

指標(単位)							単位	
指標設定理由	年次	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	
	目標値							
	実績値							
	達成率							

指標(単位)							単位	
指標設定理由	年次	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	
	目標値							
	実績値							
	達成率							

◎他市比較・ベンチマーク(県内外自治体など他自治体や民間団体との比較値)

比較事項								
団体名	鎌倉市							
他市実績								

当該事業実施に伴う 他市比較に関する考え方	当市の相対的な位置付けを他市との比較値によって測る定量評価には、事業の性質上、馴染まないと考える。
--------------------------	---